

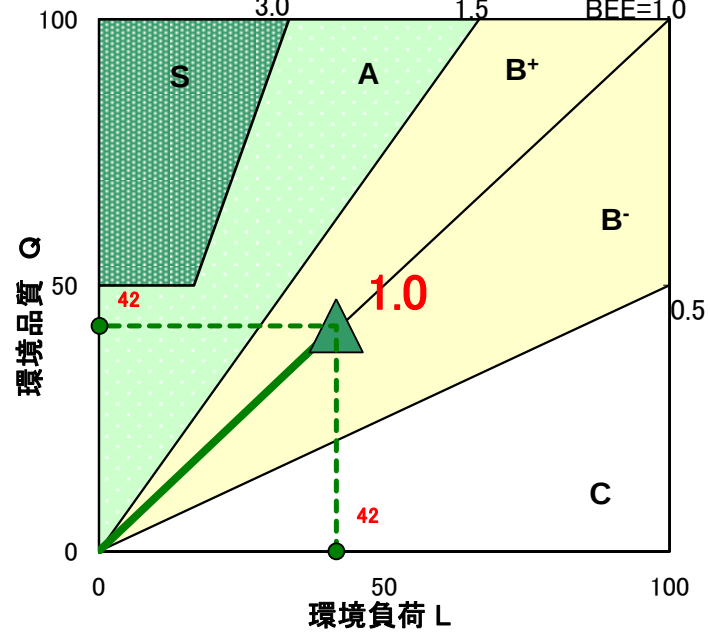
CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	(仮称)米屋町3丁目マンション新築工	階数	地上11F		
建設地	熊本市中心区米屋町3丁目1番1、4	構造	RC造		
用途地域	商業地域	平均居住人員	72 人		
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	4,500 時間/年		
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2015年2月 予定	評価の実施日	2014年9月4日		
敷地面積	795 m ²	作成者	藏原 佳代子		
建築面積	234 m ²	確認日	2014年9月5日		
延床面積	2,020 m ²	確認者	伊東 正太郎		

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)





■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



BEE = 1.0

■BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

排出率

93%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

68

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

【重点事項4】 循環型社会の実現

評価点

74.7

61.2

55.0

73.5

■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

Page : 1/6

Sheet : 1/5

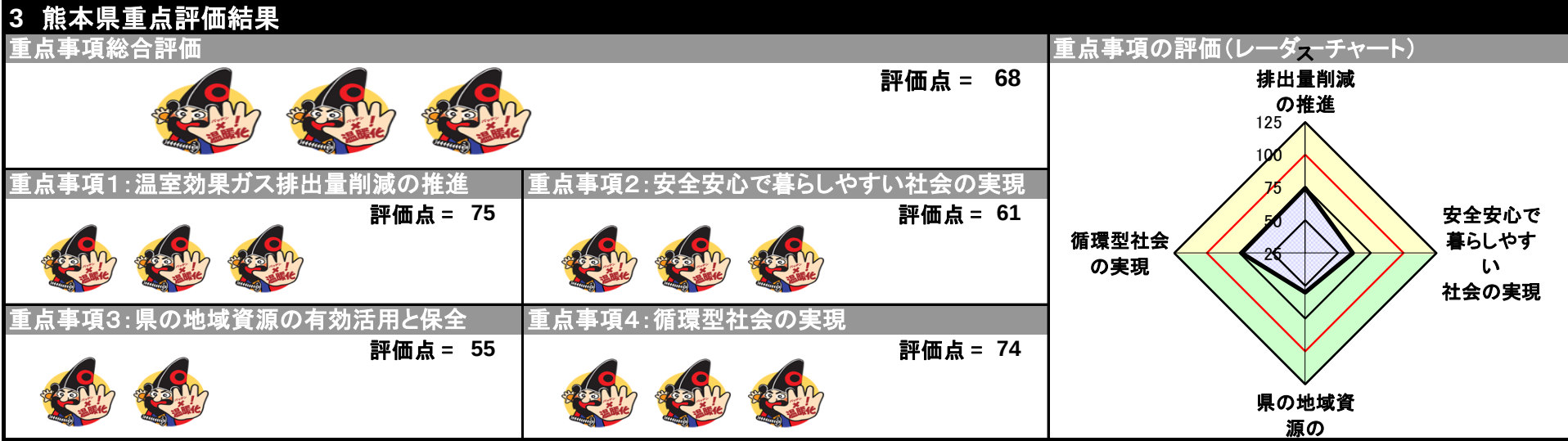
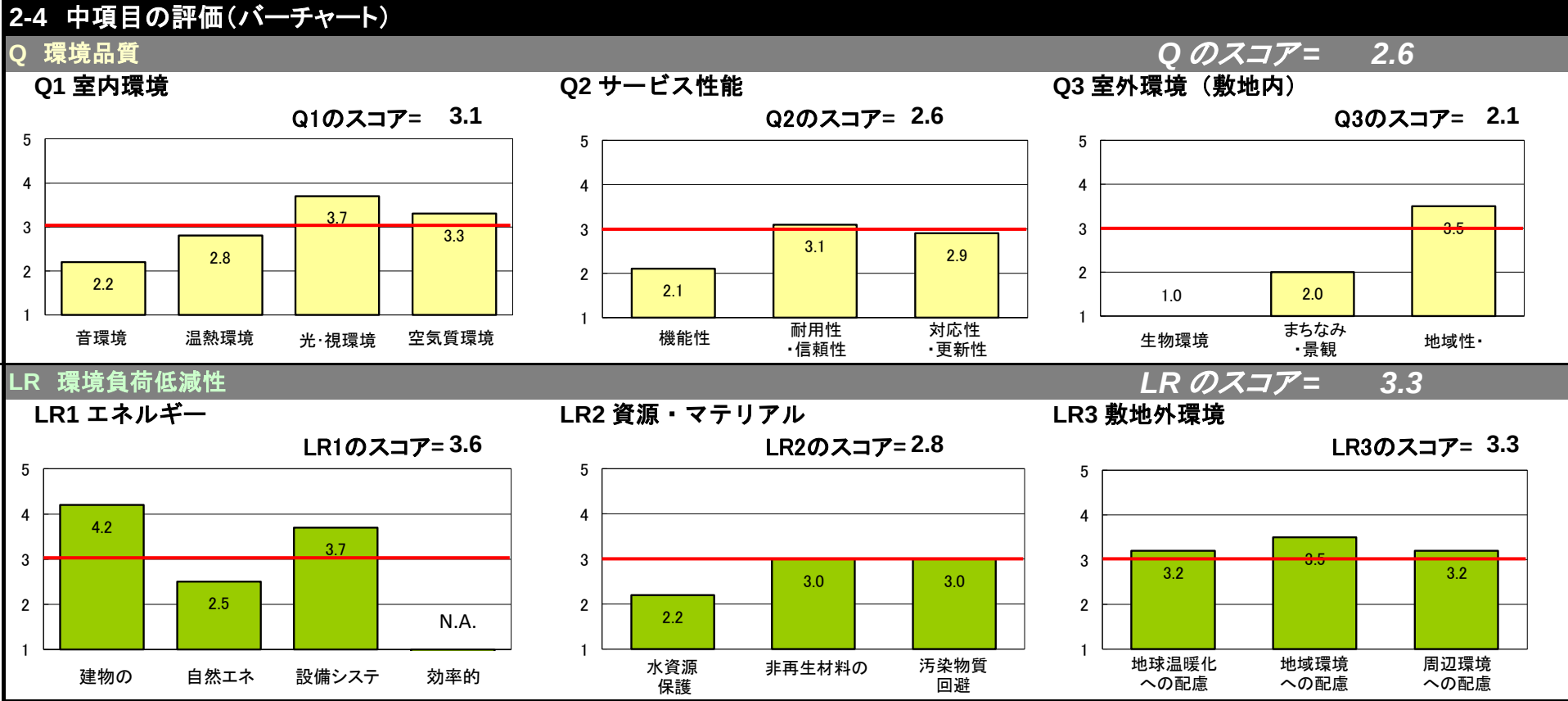
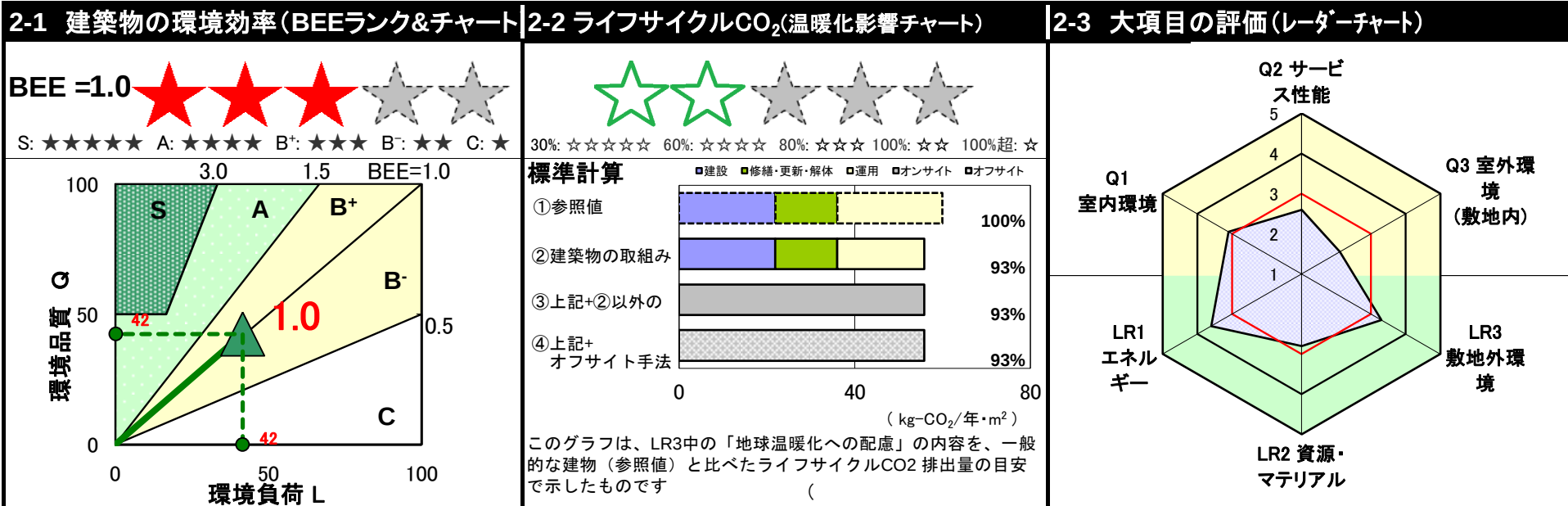
CASBEE®

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの期間限定で使用できます。

CASBEE熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築(熊本市) 2010年追補版Ver.2 (BPI&BEI対応) | 使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2010bpi&bei(v.2.0)

1-1 建物概要			1-2 外観
建物名称	(仮称)米屋町3丁目マンション新築	階数	地上11F
建設地	熊本市中央区米屋町3丁目1番1、4	構造	RC造
用途地域	商業地域	平均居住人員	72 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	4,500 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年2月 予定	評価の実施日	2014年9月4日
敷地面積	795 m ²	作成者	藏原 佳代子
建築面積	234 m ²	確認日	2014年9月5日
延床面積	2,020 m ²	確認者	伊東 正太郎



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年追補 (仮称)米屋町3丁目マンション新築工事			欄に数値またはコメントを記入		■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版Ver.2 (BPVBEI対応) ■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010bpi&bei(v				
スコアシート			実施設計段階						
配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
					評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質									2.6
Q1 室内環境						0.40			3.1
1 音環境					2.0	0.15	2.2	1.00	2.2
1.1 騒音					3.0	0.50	3.5	0.50	
1 室内騒音レベル		3.0			1.00	4.0	0.50		
2 設備騒音対策		-			-	3.0	0.50		
1.2 遮音					1.0	0.50	1.0	0.50	
1 開口部遮音性能		1.0			1.00	1.0	0.30		
2 界壁遮音性能		-			-	1.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-			-	1.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-			-	1.0	0.20		
1.3 吸音					-	-	-	-	
2 温熱環境							1.0	0.35	
2.1 室温制御					1.0	0.71	3.0	1.00	
1 室温		1.0			0.63	-	-		
2 負荷変動・追従制御性		-			-	-	-		
3 外皮性能		1.0			0.38	3.0	1.00		
4 ゾーン別制御性		3.0			-	-	-		
5 温度・湿度制御		-			-	-	-		
6 個別制御		-			-	-	-		
7 時間外空調に対する配慮		-			-	-	-		
8 監視システム		-			-	-	-		
2.2 湿度制御							1.0	0.29	
2.3 空調方式					-	-	-	-	
3 光・視環境					3.5	0.25	3.8	1.00	3.7
3.1 屋光利用			共用部:13.7% 住居部:1.0%		4.2	0.30	3.6	0.50	
1 屋光率		5.0			0.60	3.0	0.50		
2 方位別開口		-			-	5.0	0.30		
3 屋光利用設備		3.0			0.40	3.0	0.20		
3.2 グレア対策					2.0	0.30	4.0	0.50	
1 照明器具のグレア		-			-	-	-		
2 屋光制御		2.0			1.00	4.0	1.00		
3 映り込み対策		-			-	-	-		
3.3 照度					3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御					照明制御できる	5.0	0.25	-	
4 空気質環境					3.6	0.25	3.3	1.00	3.3
4.1 発生源対策			F☆☆☆☆建材の採用		4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質		4.0			1.00	4.0	1.00		
2 アスベスト対策		-			-	-	-		
3 ダニ・カビ等		-			-	-	-		
4 レジオネラ対策		-			-	-	-		
4.2 換気					3.0	0.40	2.3	0.38	
1 換気量		3.0			1.00	3.0	0.33		
2 自然換気性能		-			-	1.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮		-			-	3.0	0.33		
4 給気計画		-			-	-	-		
4.3 運用管理					-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-		
2 喫煙の制御				-	-	-	-		
Q2 サービス性能					-	0.30	-	-	2.6
1 機能性					1.7	0.40	2.2	1.00	2.1
1.1 機能性・使いやすさ					1.0	0.40	2.0	0.60	
1 広さ・収納性		-			-	-	-		
2 高度情報通信設備対応		-			-	2.0	1.00		
3 バリアフリー計画		1.0			1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性					1.0	0.30	2.5	0.40	
1 広さ感・景観		-			-	4.0	0.50		
2 リフレッシュスペース		-			-	-	-		
3 内装計画		1.0			1.00	1.0	0.50		
1.3 維持管理					3.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		防汚性の高い仕様、埃の溜り難い設計、風除室の距離を確保、維持管理の異なる床材、防錆			4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保			3.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務			-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性					3.1	0.31	-	-	3.1
2.1 耐震・免震			タイル貼り(40年)		3.0	0.48	-	-	
1 耐震性		3.0			0.80	-	-		
2 免震・制振性能		3.0			0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数					3.4	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0			0.23	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		5.0			0.23	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		2.0			0.09	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0			0.08	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		5.0			0.15	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0			0.23	-	-		

2.3 適切な更新	2.4 信頼性			3.0	0.19	-	-		
	1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-		
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-		
	3	電気設備		3.0	0.20	-	-		
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-		
	5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-		
	3 対応性・更新性			3.4	0.29	2.9	1.00	2.9	
3.1 空間のゆとり	3.1 空間のゆとり			-	-	2.8	0.50		
	1	階高のゆとり		-	-	4.0	0.60		
	2	空間の形状・自由さ		-	-	1.0	0.40		
	3.2 荷重のゆとり			-	-	3.0	0.50		
	3.3 設備の更新性			3.4	1.00	-	-		
	1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-		
	2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-		
	3	電気配線の更新性	仕上部材を痛めることなく、更新・修繕できる	5.0	0.11	-	-		
	4	通信配線の更新性	仕上部材を痛めることなく、更新・修繕できる	5.0	0.11	-	-		
	5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-		
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-		
	Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.1	
	1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0	
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0		
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5		
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-			
3.2 敷地内温熱環境の向上			空地率98.3%、水平投影面積率26.65%、外壁面对策面積率		4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.3		
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.6		
1 建物の熱負荷抑制			等級3、高効率照明		4.2	0.40	-	4.2	
2 自然エネルギー利用			2.5	0.20	-	-	2.5		
2.1 自然エネルギーの直接利用			2.0	0.50	-	-			
2.2 自然エネルギーの変換利用			3.0	0.50	-	-			
3 設備システムの高効率化			高効率照明の採用		3.7	0.40	-	3.7	
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)			#VALUE!		-		-		
集合住宅の評価			3.7		-		-		
4 効率的運用			-	-	-	-	-		
4.1 モニタリング			-	-	-	-	-		
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.8		
1 水資源保護			2.2	0.15	-	-	2.2		
1.1 節水			1.0	0.40	-	-			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-			
1			雨水利用システム導入の有無	3.0	1.00	-	-		
2			雑排水等利用システム導入の有無	-	-	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.63	-	-	3.0		
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.07	-	-			
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24	-	-			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-			
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用			1.0	0.20	-	-			
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.05	-	-			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			胴縁工法		5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22	-	-	3.0		
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-			
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68	-	-			
1			消火剤	-	-	-	-		
2			発泡剤(断熱材等)	3.0	1.00	-	-		
3			冷媒	-	-	-	-		
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3		
1 地球温暖化への配慮			高効率照明		3.2	0.33	-	3.2	
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5		
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-			
2.2 温熱環境悪化の改善			風下に関係しない、隣棟間隔、LR1、標準的工夫		4.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.3	0.25	-	-			
1			雨水排水負荷低減	-	-	-	-		
2			汚水処理負荷抑制	3.0	0.33	-	-		
3			交通負荷抑制	4.0	0.33	-	-		
4			廃棄物処理負荷抑制	3.0	0.33	-	-		
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2		
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-			
1			騒音	3.0	1.00	-	-		
2			振動	-	-	-	-		
3			悪臭	-	-	-	-		
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-			
1			風害の抑制	3.0	0.70	-	-		
2			砂塵の抑制	1.0	-	-	-		
3			日照阻害の抑制	3.0	0.30	-	-		
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-			
1			屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドライン、広告物照明の取扱いの過半を満足		5.0	0.70	-	-
2			屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-		

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

周囲の景観に調和するようシンプルな外観デザインとした
ゆとりある間取りで各戸の快適性を重視した設計とした

Q1 室内環境

居室の窓を大きくし、通風・採光の確保に努め、快適な住空間を目標とした。
使用建材はF☆☆☆☆製品とし、化学物質汚染被害を防止する。

Q2 サービス性能

将来の更新を想定し、住居部はビニールクロスを採用。
階高を十分に確保し、設備機器等の更新に備える。

Q3 室外環境（敷地内）

外壁材（タイル）の彩度を落したデザインとし、周囲への太陽光の反射やグレアの軽減を図る。

LR1 エネルギー

日射遮蔽性を図り、断熱性能を高めるよう、庇を広く計画した。
グレアの軽減も図る。

LR2 資源・マテリアル

ハロン消火剤を使用しない。

LR3 敷地外環境

限られた敷地内でできる限りの駐車台数・駐輪台数を確保した。
ゴミ置場を設け、悪臭が周囲へ漏れないようにし、景観に配慮した。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称

(仮称)米屋町3丁目マンション新築工事

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010_kmt2011(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果					総合評価点	67.8
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進						
Q1-2.1.3	外皮性能	1.0	0.15	74.7	0.40	29.88
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.00			
Q1-3.2.2	昼光制御	2.0	0.00			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	4.2	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	2.5	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	3.7	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現						
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	1.0	0.25	61.2	0.20	12.24
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	4.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全						
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	2.0	0.20	55	0.20	11.00
LR2-1.1	節水	1.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現						
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.4	0.30	73.5	0.20	14.70
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数